

環境検討部会（第2回） 議事概要

1. 日時：平成29年6月27日（月） 10:00～12:00
2. 場所：思川西部土地改良区 会議室
3. 議事概要

今後も、四季を通じた調査結果から、魚類の生息場や移動などが見えてくるかもしれないので、引き続き、注目していくこととなった。

今回の春季調査の段階では、特に付け加えるべき保全対象種の議論については、必要ないということで部会全体の共通認識となった。

思川と排水機場の水の接続状況について調べ、自然排水が一つのネットワークとして評価できるかどうか、確認することとなった。

分断箇所となる堰の改修においては、魚道付き堰というものが考えられるが、魚道付き堰の設置は、管理者の意向、生き物調査の生息状況等、確認しなければならない事項がいろいろあるので、引き続き議論していくことになった。

非かんがい期は堰が開き、生き物が移動出来ると思うので、かんがい期だけでなく、非かんがい期の状況も考慮して水系ネットワークを判断すべきとの意見があった。

地下水位観測について、前回部会での意見の趣旨は、水路に対し水が水路外へ出ていくのか、湧水的に水路内に入ってくるのかを把握するためなので、引き続き様子を見ることとなった。

井桁ブロックを、ワンドの中だけではなく、線的な保全対策として用いることについては、事業費等の関係もあり全線の設置は難しい。また用地的な問題もあるとの意見があった。

物理的な施設をどうするかという基本的な考えを整理することは必要だが、その物理的な施設をどう管理するのかという維持管理の議論なしでは先に進めないで、管理主体、管理方法等、維持管理についてもどうしていくか検討することとなった。

ナガエミクリの生育場としては、ワンドだけに依存すると他のものとの競合が生じ維持管理が難しいので、メンテナンスのかからない小規模なものをあちこちに配置した方がよいとの意見があった。

出来る限り早期にワンドをまず1箇所設置する。設置後も継続的に植物の繁茂状況、生き物調査等を実施し、後年度の環境配慮対策にフィードバックすることとなった。